

今、JOA では普及につながる様々なモデル事業を行なっている。これらは、都道府県協会、地域クラブレベルでも十分取り組み可能なものである。

JOA の最近の取り組み

この10年間、全国一斉オリエンテーリング大会を除くと、普及については無為無策だと言われても仕方ない状態だったJOAだが、ここ1,2年、様々な普及の試みを始めている。その成果が出るにはしばらく時間がかかると思われるが、都道府県協会や一般クラブでも可能な取り組みのモデル作りを目指している。本稿ではそれらの取り組みを紹介する。

個々の取り組みを紹介するまえに、普及対象のとらえ方について簡単に指摘しておこう。普及と一言で言うが、その対象は多様であり、効果的な普及のためには対象を考慮することが必要である。一般市民はもちろん重要な対象であるが、アウトドア愛好者（登山者なども含む）と子どもたちは、最も重要な2つの層である。

アウトドア愛好者へのオリエンテーリングの認知はここ数年間で随分進んだ。ロゲインやアドベンチャーレースには、様々なアウトドアスポーツ愛好者が参加し、読図の面白さを体験したり、ナビゲーション技術の必要性を実感したりしている。彼らの中には都道府県のオリエンテーリング協会やオリエンテーリングクラブに登録している人も現れている。これらの人たちは、数こそあまり多くないが、オリエンテーリング愛好者にもっとも近い場所にいる人たちであろう。

登山者やハイカーは、アウトドア活動者の中でも普及の重要なターゲットである。本来彼らにはある程度の読図力が必要な訳だが、地図を読めない人の方が多い。実際道迷いによる遭難は多発し、大けがや死亡事故にもつながっている。彼らが読図力を磨く場として、オリエンテーリングは本来格好のスポーツなのである。現在熱心に続けている古株オリエンティアの中には30年くらい前のオリエンテーリングの黎明期に、読図スキル向上のために登山からオリエンテーリングに入ってきた

人も少なくない。残念ながら、現在はそのあたりのPRが十分ではない。また大会も、読図力を身に付けたい登山者やハイカーを受け入れる体制が十分とは言えない。この点は配慮が必要だろう。

子どもたちにオリエンテーリングを普及する場としては、学校と野外活動施設がある。学校での普及事例については、本誌上でも何回か取り上げたことがある。正規のカリキュラムに入っていないオリエンテーリングを学校で実施するためには、教員や学校とのコネが必要になるが、その部分さえクリアされれば、準備も含めてそれほど難しいことではない。

多くの子どもたちが小学校高学年で、野外活動施設での体験活動を経験する。その多くは公的な野外活動施設で行なわれている。日本に約1200ある公的な野外活動施設のうち、オリエンテーリングの常設コースを持つものが600にのぼるが、その多くは維持管理が不十分だと推測されるし、コースやコントロールの設置場所・数などの点でも、子どもたちが楽しめるものになっていない。またコースの利用率自体も減少している。パーク0やスクール0の発想を取り入れ、子どもにとっても熱中できるプログラムを野外活動施設に提供していくことは、子どもへの普及を考える上で最重要課題であろう。小中学生が、即オリエンティアにならないとしても、その魅力を体験した人口が増えることは望ましい。

こうしたターゲットの分析を踏まえ、JOAでは本年度、以下のような取り組みを行なった。

リーフレットの作成

テニスやサッカーのようにTV放映もされ、見るチャンスも多いスポーツなら、誰もが程度のイメージは持っている。しかし、オリエンテーリングは違う。そこで、オリエンテーリングの特徴が簡潔に紹介され、ある程度ビジュアル的に伝わるようなリーフレットを作成した。大会案内と合わせて配布したり、大会開催時の地元挨拶時に配ったりするなど、オリエンテーリングを紹介する様々な場面で利用可能なA4表裏のピラである。事務局で取り扱っている。

ミニオリエンテーリング講習会

平成18年度、独立行政法人オリンピック記念青少年センターの子どもゆめ

基金の助成を受け、子ども向けのオリエンテーリングの普及講習会を大坂、埼玉、静岡の3会場で行なった。対象者の中には日頃キャンプ等で子どもの指導にあたる指導者もあり、野外活動場面でのオリエンテーリングの活用が進むことを期待したい。ミニオリエンテーリングは学校校庭やその周辺での実施も可能であり、今後もその実施方法についての講習を継続して行なっていく予定である。

登山者向け読図講習

平成19年3月4日に、静岡の好日山荘との共催で、登山者・ハイカー向けの読図講習会を行なう（本稿執筆時点予定）。この講習会は、開催3週間前には定員（20名。実際には22人受付）がいっぱいになるほどの好評であり、この分野からの読図への関心が伺える。個人的には同種の講習会をすでに数回行なっていたが、多くの場合定員いっぱい以上の応募がある。

この講習では簡単なオリエンテーリングも行なう予定であり、岐阜県オリエンテーリング協会の視察も予定されている。地域のオリエンテーリング活動の認知を進め、また他の活動との接点を広げる上でも有力なイベントとなると期待している。

なお、アウトドアメーカーとの関係では、毎年5月のゴールデンウィークに石川県で行なわれているモンベルのトライ&キャリーという2000人以上が集まるイベントの中でファミリー・小学生を対象としたオリエンテーリングを本年取り入れてもらう予定である。

野外活動施設のコースリニューアル

上にも書いたように、野外活動施設のオリエンテーリング常設コースは、リニューアルが望ましいものが多い。そこで、各地にある野外活動施設に、オリエンテーリングの現状を紹介するとともに、リニューアルの実施を呼びかけるピラを作成し、本年2月に送付した。原稿執筆時点ではまだ反応はないが、こうした情報提供を継続して行なうことで、野外活動施設のオリエンテーリングコースの現状を改善し、より魅力的なオリエンテーリングを子どもたちに体験してもらうようにしたい。

（村越真）